



APAYeNEWS

アジア・太平洋Y M C A同盟月報 No.05/2010年6月-7月-8月 翻訳協力：伊藤剛士・杉野歌子

1. 世界大会 2010～APAYのユースが執行委員選挙で最高票を獲得！ 世界YMCA同盟で新たなリーダーシップを発揮！

2010年～2014年における世界Y M C A同盟の新たな役員の改選に、心よりお祝いを申し上げます。会長：ケン・コロトン氏（アメリカ合衆国）、副会長：フェルナルド・オングルザ（メキシコ）、財務：ヘレン・マックエワン氏（ニュージーランド）、がそれぞれの地域同盟より選出されました。またヨハン・ビルヘルム・エルビック牧師が2011年1月より世界Y M C A同盟総主事に任命されました。エルビック氏は現在ヨーロッパY M C A同盟の総主事を兼任しています。

私たちは、アジア・太平洋Y M C A同盟「ユースの参画とリーダーシップ開発委員会（YPLD）」メンバーのオリバー・ローク氏（シンガポール）が、世界Y M C A同盟次期常務委員選挙において最高票を獲得して選出されたことをお伝えできることを大変嬉しく思い、また祝福します。ローク氏は世界大会に先立って行われたアジア・太平洋Y M C A同盟ユースカウンシルの実行委員長でもありました。彼は現在シンガポール経営大学Y M C Aの副会長を務め、シンガポール人として初めての世界Y M C A同盟常務委員メンバーになるという、シンガポールY M C Aにとって大きな歴史を刻みました。

また、アジア・太平洋地域から世界YMCA同盟常務委員に選出されたその他の方々にも祝福いたします：Judge Edilberto Claravall氏（フィリピン）、バブー・マルクス・ゴメス氏（バングラデシュ）、長尾ひろみ氏（日本）。また、アジア・太平洋Y M C A同盟会長であるパク・ジャイ・チャン氏はその職責上、世界Y M C A同盟常務委員を務めます。

おめでとうございます！皆様がY M C Aの使命のもとで、それを果たすことができますよう、神の導きがありますように。

2. マカオY M C A～世界Y M C A同盟の最新の加盟国に



私たちの地域のマカオY M C Aの世界Y M C A同盟への新たな加盟が、世界Y M C A大会期間中に承認されました。マカオY M C Aは1994年の設立以来、若者と子どもの開発に尽力してきました。理事長のイプ・プイ・ファイ氏、総主事のグレイス・クアン氏、そしてマカオY M C Aのメンバーの皆さん、おめでとうございます！

3. パキスタンの洪水 - Y M C Aの対応

今年の7月・8月のパキスタンにおける大きなモンスーンは、史上最悪の洪水を生み出しました。被害は広大な範囲に及び深刻です。レポートによれば死者は約1,600人とされており、2,000万人に影響が及んだといわれています。また今後数日中はこの数字は増え続けるだろうとも言われています。

私たちは、パキスタン ラホールY M C Aの総主事であるMr. Samuel Pervez氏に連絡を取り、

レポートを入手しました。Y M C Aの洪水災害対策チームは食糧の提供や緊急配給を行おうとしています。ラホールY M C Aには引き続き、最新情報を知らせてくれることを期待しています。

また、私たちは、一連の緊急支援運動に向けて、連携や支援を呼びかけてくれた世界各国のY M C Aや地域同盟に感謝いたします。今までに、日本Y M C A同盟、米国Y M C A、カナダY M C Aが合計で5,000ドルの支援を下さいました。今回の災害で被災した方々が神と共にありますように。また、このような働きが人々に安堵をもたらしますように。

* 日本のY M C Aからは緊急支援として2000ドルを送金しました。

4 . ジェンダー・ワークショップ 2010 がインドのブネで行われます

ジェンダーの公平は、事業の成長を通してどのように達成されるのでしょうか。持続可能な経済の戦略としての事業の成長の近年の傾向や機会はどのようなものなのでしょうか。

持続性のための性に関する事柄の主流を理解するために、私たちは持続可能な開発と経済発展に焦点を当てたジェンダー・ワークショップを開こうとしています。このワークショップは、貧困の軽減と、ジェンダー関連の事柄、そして女性の開発に関するY M C Aのフォローアッププログラムを統合したものになっています。インドのブネで9月24～28日に行われます。

* 日本からは武田寿子氏（神戸Y M C A理事長・日本Y M C A同盟ジェンダー委員長）、足嶋英理子氏（神戸Y M C Aコースリーダー）が参加します。

5 . Bayanihan ~ 第3回 Uni-Y 会議

Bayanihanはフィリピンの伝統的な言葉で、コミュニティ内の目的を達成するための「協力」「自発性」の精神を意味する言葉です。これはフィリピンのBaguio CityのTeacher's Campで10月19～24日に行われる第3回アジア・太平洋地域Uni-Y会議の焦点です。このプログラムはBaguio Y M C AとフィリピンY M C Aの共同で行われます。今年度の会議は並行するセッションから成り立ちます。討論形式のワークショップや、コミュニティ訪問、そして振り返りの時間などです。参加者はコミュニティ・サービス・プロジェクトへの参加を通して、大きな実践的な学びを得ることが期待されています。そこには、参加者同士の関係・友情を創り出し、育んでいく、数々の社会的役割があります。ここでの学びは、若き心を持つ全てのコースにとって素晴らしい経験になることは間違いありません。参加をお待ちしております。フィリピンでお会いしましょう！

* 日本からは学生Y M C Aメンバーを中心に6～7名が参加予定です。

6 . アドバンスコース 2010 について（再掲）

第28回アドバンスコースが11月14日～12月12日に香港で開かれます。アドバンスコースは私たちの地域にとって非常に重要なトレーニングプログラムであり、運動の構築・発展のための専門的なリーダーシップの強化を目的としています。現在までに、パングラデシュ、香港、中国、インド、日本、ミャンマー、フィリピン、そしてスリランカから13人の研修生が選ばれています。

* 日本からは太田直宏氏（岡山Y M C A総主事）、金弘明氏（在日本韓国Y M C A）が参加します。

7. アジア・太平洋Y M C A同盟ユースカンファレンス (AYC) 2010 が開かれ、キリストの愛とともにある若者のリーダーシップの育成に貢献しました

フィリピンYMCAユースボランティアのJude Miguelito De Laraの報告をお送りします。



17の国・地域から、56人の若手のリーダー、学生、ボランティア、そしてスタッフが、7月14日～16日にかけて香港のY M C A ウー・カイ・シャ・ユースビレッジにて開催された、アジア・太平洋Y M C A同盟ユースカンファレンス (AYC) に参加しました。このプログラムは若者のリーダーシップ開発と積極的な参画の推進を目的としています。また、このプログラムはAYCの直後に開かれるインターナショナルユースフォーラム (IYF) に向けての準備をし、有意義に参加できるようにとの目的もあります。

アジア・太平洋Y M C A同盟総主事である山田公平氏は、19の国・地域からのユースの参加と運営に関するまとめのレポートを発表しました。彼の「私たちの過去を知り、未来を望む」の発表では、それぞれの国のユースの視点から、運動参加のための障害や、現実を知るための鋭い洞察を私たちは得ることができました。結論として、運動拡大のための成長には、意思決定をしていくユースのリーダーシップが大切ということが提示されました。また山田公平氏はY M C Aは既にアジア太平洋地域のユースの支援をする準備があり、またそれをしたいという気持ちがあることを伝え、その上で、「では、君たちは何が必要だと思っているのか？」と私たちに問いかけました。この問いはプログラム中に参加者の間でさらに繰り返し問われ、深く考えられていきました。



次の日には各国の状況を分かち合う時間が持たれました。バングラデシュ、カンボジア、香港（香港中華Y M C Aと香港Y M C A）、インド、インドネシア、韓国、マカオ、ミャンマー、ネパール、シンガポール（メトロポリタンY M C A）、タイ、ベトナムが発表を行いました。彼らは各国でのユースの現状を紹介し、またそれぞれのユースが自分たちのできる範囲で、あるいはそれを超えて、自分たちの生活を再構築・再解決するために必要な、異なる解決方法を分かち合いました。



その一方で、東ティモール、日本、フィリピン、シンガポール、スリランカ、台湾はユースの参画とリーダーシップ開発のための具体的事例・プログラムを発表しました。共通のフレームワークに沿って、まず発表国は事前にレポートを書きました。フレームワークの質問内容は、ユースの参画とリーダーシップ、ユースの意思決定、ユースのトレーニングと開発、そしてそのための仕組みと組織です。そして、6カ国の発表の後には、各国代表1人ずつで3人のグループを作り、考えを明確にしたり、プログラムをよりよいものにしていくためのアドバイスをしたりするための、質問と回答の時間が設けられました。最後に、AYCの代表であるオリバー・ローク氏、アジア・太平洋Y M C A同盟ユースの参画とリーダーシップ開発委員会 (YPLD) の代表であるクリスティーナ・ミランダ氏が総括を述べました。

「Y M C Aユースメンバーとスタッフの対話」のセッションでは、AYCにおける特筆すべき貴重な経験でした。アジア・太平洋同盟の主事である、マリア・クリスティーナ・ダロペ氏が司会進行を務め、それぞれのY M C Aコミュニティで重要な役割を担う参加者たちの、考えや知識をお互いに自由に交換する場を設けました。これら2つの主体の繋がり・連携の結果として、更なる明確な理解と、深い感謝の気持ちと、サポートの強化がもたらされました。



また、SOAR分析という手法を用いて、必要な戦略や意図について話し合われました。ワークグループセッションでは、ユースから新しいアイデアが生まれるように進行され、ここで得たことは、2011年9月にマレーシアのペナンで開催されるAPAYユース会議や来るべき今後の10年の活動において良き導きになると思われます。

夜には参加者でバーベキューを行い、ゲームや歌や踊りを楽しみました(そしてオークションも楽しんだことは言うまでもありません)。S2Sキャンペーンでは、ユースメンバー自らが自分たちユースをサポートしてもらうためのお金を集めるための手法を見つけました。彼らは持ち寄ったシャツ、絵、ハンドバッグなどを売ったりしました。

キリストによって示された愛とともにあるリーダーシップにユースが関わっていくことが、AYCの主要な目的です。これは、キリスト教の原則と使命に根ざした、ユースの地方、国、地域レベルでの更なる参画という事に言い換えることができます。この考えは、関連する調査の報告や、主要なリーダーからの指摘によって明らかにされたように、ユースがリーダーシップを得る機会の格差や、意思決定過程におけるユースの参画の低さに基づいています。



AYCの最後には、主要リーダーのミーティングが開かれ、アジア・太平洋同盟ユース委員会のメンバーや様々なYMCAのメンバーが出席し、APAY地域のユースの現在の状況について、さらに話し合いが行われました。アジア・太平洋地域のユースは、2011年に開かれる次回の常務委員会やアジア・太平洋ユース会議に向けて準備を始めました。次の2012～2015年の4カ年計画の推進のために、さらにたくましく、ユースの参画を強めていこうとしています。

今回のプログラムは、本当の意味で「ユースによる」ものになったことを私たちは大変嬉しく思います。アジア・太平洋同盟主事のクリスティーナ・ダロペ氏の導きの下、ほとんどのプログラムの内容は、アジア・太平洋同盟ユース委員(YPLD)の手によって考えられ、進められました。また、アジア・太平洋地域ユース会議は、ユースのためのスキップ・ア・ミール・トゥー・セーブ(S2S)キャンペーンの支援によって実現可能になりました。AYCに関わる全ての関係者の皆様に、また、AYCのためにご支援くださった全ての皆様に大きな感謝の気持ちを表したいと思います。本当にありがとうございました。

(AYC 2010の主要な成果、2020年に向けてのビジョンはアジア・太平洋YMCA同盟のホームページからご覧になれます。また、アジア・太平洋同盟ユース委員でもある伊藤剛士氏が作成したビデオも、同じくホームページからご覧になれます。)

* 日本からは、伊藤剛士氏(学生YMCA)、荒木勇磨氏(学生YMCA)、橋崎頼子氏(神戸YMCA常議員)が参加しました。

8 . S2S キャンペーン - アジア・太平洋同盟ユースカンファレンスから世界YMCA大会まで

アジア・太平洋同盟ユース委員であり、S2Sキャンペーン・ワーキンググループのリーダーである、ベトナムのアマンダ・ニューエン氏が報告します。

3月のアジア・太平洋YMCA同盟常務委員会でのリソース・モビリゼーション(資源の有効的活用)のワークショップに基づい



て、アジア・太平洋同盟ユース委員会ではS2Sワーキンググループを組織し、さらに若々しさ溢れるキャンペーンビデオを作製しようとしています。そのために、私たちは何度かインターネット上で会議を開き、そこでこの7月の香港の一連の国際的イベントの期間中に、S2Sキャンペーンの紹介をする数々の方法を考案しました。

アジア・太平洋地域ユース会議(AYC)、国際ナショナルユースフォーラム、そして第17回世界Y M C A大会は、このAPAYユース委員会によるリソース・モビリゼーションのためのキャンペーンであるS2Sのさらなる強化が始まった機会となりました。

S2Sキャンペーンは、国際ナショナルユースフォーラムでも開催され、ウェルカムパーティーにて紹介されました。会場にはテーブルが設置され、さらにアジア・太平洋地域の国々からのお土産を販売し、他の地域の参加者が購入し寄付をできるようにしました。世界大会では、リソース・モビリゼーションのセッションで私はこのキャンペーンを分かち合う機会をいただきました。



今回、私たちは、とりわけアジア・太平洋地域の運動とユースの皆さんにとって、インパクトのあるS2Sキャンペーンをできたと思っています。最終的に、2,503香港ドルのお金を集めることができ、嬉しく思います。私たちのS2Sワーキンググループは、数ヵ月後に完成するであろう、さらに多くの人々にユースのファンドレイジングキャンペーンを知ってもらうためのビデオを作製中です。全てのAYCの参加者は、このキャンペーンを各地域でもできることを楽しみにしていますし、また「私たちならできる!」と信じています。

9 . 私たちの取り組み : 運動強化

カンボジアY M C A P S G (パートナーズ サポート グループ) が協定事項へ署名/
新しいスタッフを歓迎

2010年7月21日に香港で開催されたカンボジアY M C A P S Gミーティングにて、Mr. Im Thano 理事長が、新しく採用したスタッフの紹介をしました。2010年7月1日より主事として Mr. Chhun Srun が働き始めました。2007年よりカンボジアY M C Aの会員で、プログラム、ワークショップ、スタディツアーを積極的に運営してきました。Mr. Srun はカンボジアのNGOでの仕事の経験があり、また首都プノンペンの語学学校で英語学の学士を取得しています。Mr. Srun と同じ時期に、会計のサポートをするパートタイムスタッフも採用しました。Ms. Un Sreyroth で、2008年よりカンボジアY M C Aの会員です。彼女は会計士と英語学の資格を持っていて、地元のNGOや教会での会計業務の経験があります。

この新たな状況の変化で、カンボジアY M C Aは協力者やリソース、P S Gメンバーの専門家の助言を得ながら、徐々に発展していくことでしょう。2010年7月23日に開催されたミーティングでは、協定事項とP S G契約書に署名をしました。

ユースと地域社会のために奉仕するカンボジアでのY M C Aの発展のために、彼らとともに働きを続けるものとして、ぜひP S Gに参画し、カンボジアY M C Aのために祈ってください。



* 日本のY M C Aもパートナーとして署名をしています。

10. 持続的な発展のための環境保護：第5回国際YMCAユースキャンプ (IYYC)

「持続的な発展のための環境保護」というテーマのもと、第5回国際YMCAユースキャンプが、2010年8月1日～9日まで、東ティモール Anjunctil YMCA にて開催されました。基調講演は、政府により策定された環境問題とその解決策について、州からの2名の代表により行われました。また参加者は現地視察をとおして、現状をさらに学ぶことができました。理解と考察が、その日の夜に示された、明確なアクションプランの作成を導きました。

プログラム中の一日は、植樹プログラムが行われ、Haburas Foundation (Haburas: 東ティモールの方言で「緑」の意味) と Rede Hasitil の二つの団体を通して60本のマングローブの木を植えました。この団体は環境と農業の持続と強化を行っています。持続可能な開発のための環境保護の重要性について、ディスカッションも行いながら取り組んでいます。YMCAからは東ティモール、韓国、日本から、各国での事例が紹介されました。

東ティモールのこの地域では、大量のごみが5箇所から運ばれてきます。有名な観光地にも清掃車が続きます。夜の振り返りでは、キャンプでの活動や東ティモールにおける環境問題への継続的な取り組みについて話し合いました。

この1週間のキャンプでは ANJUNCTIL (東ティモールYMCA)、東ティモールキリスト教学生団体、ディリの国立大学の学生、KUP (大学学生ネットワーク)、そして韓国及び日本のYMCAより26名の若いスタッフとメンバーが参加しました。またこのプログラムは教会とのつながりのなかで開催されました。

(ANJUNCTIL スタッフ Mr. Admin Pinto によるレポート)

* 日本からは5名が参加しました。

11. 私たちの活動の最新情報

韓国YMCAユースミーティング100周年記念行事のハイライト：平和のために歩く

1910年に始まった韓国YMCAユースミーティングの100周年を記念し、大学YMCA同盟とハイYクラブの双方のメンバーが、2010年8月14日に集まります。ユースのメンバーの目的は、彼らの組織の平和と強化のためのビジョンを宣言することです。349のハイYメンバーはピースウォーキングで、8月11日から北朝鮮と韓国のあいだにある軍事境界線を横切り、クライマックスは8月14日のソウルで行われる100周年記念式典に参加します。8月21日～23日には、韓国大学YMCAコンファレンスがグミで行われます。

(韓国YMCA連盟/大学YMCA連盟主事 Ms. Ji Yoon Lee によるレポート)

2010年ユース・エクスプローラー・プログラム (YEP)

若い人たちの地球市民、文化理解の意識を育てるために、香港中華YMCAは、国内及び海外交流双方の参加者を増やし、2年目となるユース・エクスプローラー・プログラムを実施します。

香港中華YMCA国際・大陸事業部の Mr. Eric Won は、今年は日本、韓国、フィリピン、シンガポール、台湾、米国と協働すると言っています。2010年6月～8月までの間、ユースリーダーや学生のために4～6週間のインターンシッププログラムが提供されます。合計で43名のユースリーダーが今年の海外交流に参加し、またその間、16名の海外からの研修生が香港で夏を過ごします。

若い人たちが、地球上の異なる文化のなかで、お互いの友情を深めながら、彼らのリーダーシップやコミュニケーションスキル、責任感、そして彼ら一人ひとりのなかにまだ眠っている個々の可能性を見つけるための土台を提供することが、YEPの目的です。インターンシップのあいだ、参加者はキャンプ、子どもたちや若者のためのプログラム、学校や事務局にて仕事をします。

Roan Atti ユースとアジアコミュニティとともに...

8月3日、第3期 Roan Atti ユースメンバーが元気に、6つのパートナー及び受入Y M C A（マレーシア、ベトナム、スリランカ、カンボジア、タイ、フィリピン）での5ヶ月にわたる実地研修での深い学びや気づきとともに帰国しました。Roan Atti- Friends of Asian は地球市民教育プログラムの一環として、ユースや市民社会の人々とともに活動するユースを、韓国Y M C Aに派遣しています。



韓国Y M C Aでは7月に第4期生の選考を終え、国際ボランティア活動についての講義と2週間のローカルY M C A見学を含む研修を受けました。これらの二つのグループは8月11日から13日にともに集まり、研修と経験のシェアを行います。これは2010年9月8日から始まるそれぞれの受入国でのプログラムに行く、4期生の準備となります。

(韓国Y M C A 連盟地球市民教育センター / Roan Atti of Asia Ms. Ana Lee によるレポート)

12. 8月12日の国際青年の日より、国際青年年が始まります！



対話と相互理解...私たちの活動の持続的発展のための、ユースによる影響を与える重要なパートナーとして、すべてのY M C Aでこの活動を推進することをすすめます(詳細は世界Y M C A同盟ホームページを参照してください。 <http://www.ymca.int/>)。

13. ユースの声

(このコラムでは、それぞれのY M C Aのユースの活動における課題、学び、振り返り、分かち合いをユースのライターが焦点をあてて執筆します。初回はアジア・太平洋Y M C A同盟ユースカウンシル(AYC) 2010からの振り返りを紹介します)



「台湾Y M C Aにとって、AYCの一員であることは、とても喜ばしく、光栄なことであります。私たちのローカルY M C Aは私たちの現在の方向性に満足し、若いリーダーのトレーニングや教育が少し遅れていました。アジア諸国のY M C Aのなかでこのように活躍する若いリーダーやボランティアがいることを知り、学ぶことができ、とても貴重な機会でありました。AYCは無条件に私たちにも窓が開いており、未来の台湾Y M C Aが、アジア・太平洋同盟や他のY M C Aのユースのためのプログラムに貢献できるということを希望として持つことができました。Y M C Aのユースはまさに感動的です。」(台湾・台中Y M C A国際部ディレクター Ms. Pat, Jia-Pei Lin)

「AYCに参加できたことは、私にとって初めての経験であり、大変素晴らしい機会となりました。私はとても幸せを感じています。なぜなら、他の国の大勢のユースと出会い、彼らとシェアをできたからです。私はそれぞれの国が異なる背景をもつことで、Y M C Aがそれぞれの活動やプログラムを行っていることを学びました。



私は一人ではないということ~一つのとても大切な学びです！インドネシアは17,000の島で構成され、500の言語とさまざまな文化を持っています。人口2億人で、おおよそ90%がイスラム教徒です。私たちは拒絶だけでなく受容の経験をもっています。私たちのY M C Aにはイスラム教徒のメンバーもいます。私たちは大きな運動体ではありませんが、今、私たちは一人ではないということを知ることができました。たくさんの方がいて、特にユースは心優しく接してくれます。私たちは一人ではない...この経験

にとっても励まされています。私はインドネシアの友人にこのことをシェアし、そしてこのことは Y M C A を通しての私たちの活動が続くことをサポートするでしょう。」(インドネシア ジョグジャカルタ Y M C A 副会長 Ms. Nilufer Dmello)



「私はみなさんのホスピタリティーに心から感謝しています。私にとって初めての、この Y M C A での海外研修をとおして、自分が異なる存在であるということは決して感じませんでした。私が Y M C A をひとつの大きな家族のように感じられたように、みなさんがとても優しく友好的でした。この研修はとても素晴らしい研修で、ユースの誰にとっても貴重な経験で、私はこの一員であることをうれしく思っています。私の所属する Y M C A の副会長として、ユースミーティングを計画し、香港での経験と学びを報告したいと思っています。このことは Y M C A やそのミッションの理解を深め、より Y M C A に協力できることの手助けになると思います。いろいろ言ってみてもやはり、私たちは夢を見ることもなのです。」(インドネシア Jabalpur Y M C A 副会長 Ms. Nilufer Dmello)

「私は APAY ユースカウンスルの参加者の一人であることを、とてもうれしく思っています。なぜなら、これは私にとっては初めての国際会議への参加であったからです。すべての AYC スタッフと他の参加者はとても優しく、友好的でした。アジア・太平洋地域の Y M C A のユースの働きについてたくさん学ぶことができ、地域を越えて、多くのよい友人と出会うことができました。」(タイ チェンマイ Y M C A ユースボランティアリーダー Mr. Krissada Sangchay)

「これはユースリーダーシップが徐々に育っていくための過程です。この戦略は生産性が高く、技術的にも完璧で、ユースにとって魅力的です。セッションもクリエイティブで、楽しく、とても活気のあるものでした。グループワークとシェアリングでは、私たちが計画を立てたり、仕事をするとき直面する多くの質問や課題への答えやアイデアを与えられました。私は自分の国でこの経験を紹介し、バングラデシュの活動にフィードバックをしたいと思っています。ありがとう！」(バングラデシュ ダッカ Y M C A ユースメンバー Ms. Balmi Chizm Tora)



「このコンファレンスの参加者の一人となれたことに、神様に感謝します。私たちはお互いにシェアし、学び、たくさん笑いました。このことによりすべての地域に新しい友人ができました。私たちには楽しみがたくさんあります！ Y M C A は若者の組織です。これは確かなことです。クリエイティブで、情熱的な仕事とボランティアを AYC で発見しました。わたしたちはみな、ユースとよりよい未来のために働いています。みなさんはユースリーダーシップ開発と参画の推進をみなさんの地域で行っていますか？近くに Y M C A を見つけて訪ねてみてください。そしてともに未来を作りましょう。あなたに会うことをもう待っていません。AYC すべての参加者を愛しています！」(香港中華 Y M C A ユースメンバー Mr. Steven Ng Kapo)

14. 第18回アジア・太平洋 Y M C A ジェネラルアッセンブリー準備計画

香港での世界大会に引き続き、第18回ジェネラルアッセンブリー準備委員会が、7月25日～26日に、アジア・太平洋 Y M C A 同盟事務所にて開催されました。準備委員会では、プログラムの内容とその考案、リソースパーソンの候補、テーマ、前回大会の経過と成果をうけての、4年間の強調点とレビューへの考察などについて、意見を出し合いました。次の4年間の事業戦略の方向性と現在の事業計画の評価が大会での重要要素となります。ユースの参画とリーダーシップについては、ジェネラルアッセンブリーでのすべての場面において配慮されます。女性の参加も同



様に進められます。

委員会のメンバーは、この3月の常務委員会にて選出されました。Mr. Peter Malone (太平洋地域・オーストラリア)、Ms. Maria Christina Miranda (コース委員長・フィリピン)の2名が委員長をつとめます。他の委員は Mr. Nam Boo Won (東アジア・韓国)、Mr. Jerry Choo Soon Haw (東南アジア・マレーシア・ホストYMCA)、Mr. Duncan Chodhury (南アジア・バングラデシュ)、Dr. Patcharawan Srisilapanan (ジェンダー委員長・タイ)、及び APAY の主事です。次回の会議は2010年11月11日～13日に、主管YMCAとなるマレーシア・ペナンYMCAで、大会の詳細について話し合う予定です。第18回ジェネラルアッセンブリーは、2011年9月6日～10日に開催されます。

15. 選挙委員会が香港で行われました

選挙委員会が7月20日に香港にて開かれ、次期4年間のアジア・太平洋同盟役員候補者推薦及び選挙の、手順について検討しました。私たちは承認された改定後の規則と寄付行為に示された新しい手順にもとづき選挙を実施します。2010年9月に、役員候補者推薦に関する案内を、各国同盟に送付する予定です。次回委員会は2011年3月の常務委員会期間中に行われます。Ms. Helen McEwan (太平洋・ニュージーランド)が委員長に選ばれました。他の委員は Judge Edilberto Claravall (東南アジア・フィリピン)、Adv Joseph John (南アジア・インド)、長尾ひろみ氏 (東アジア・日本)、及び、山田公平 アジア・太平洋同盟総主事 (職席上) です。

16. 特集：世界退職主事会 (WFYR) ～「引退しても元気です！」

世界の多くの退職した主事たちは、その才能と必要に応じたノウハウを保ち続けながら、さまざまな方法で、YMCAとその使命のために、今も活動的にYMCAに関わっています。

「Retired ... but not tired! (引退しても元気です!)」とプリントされたブルーのTシャツを身にまとい、朗らかな笑顔とともに、第4回世界退職主事会総会が第17回世界YMCA大会と同時期に、香港中華YMCAの Wu Kwai Sha コースビレッジにて開催されました。今現在のYMCA運動にそって初めて行われた歴史的な総会となり、現在の世界のYMCAのリーダーシップのなかで、退職主事同士の関係を深める機会となりました。



アフリカ、アジア、カナダ、ヨーロッパ、ラテンアメリカ&カリブ海、中東、米国より36人が参加しました。今回の集まりはホノルルYMCA元CEOで、世界退職主事会会長の Mr. Don Anderson により、きめ細かく計画されました。精力的で、効率的な働きで今回の総会を実現させた、Mr. Anderson と彼のリーダーシップを賞賛します。

世界退職主事会の包括的な目的は、すべてのYMCAの退職主事に、フェロシップを楽しみ、YMCAのミッションに対する彼らの団結心とコミットメントを発信する場を提供することにあります。

YMCAスタッフへの資金援助と危機的状況を支援する世界YMCA同盟の努力をサポートしていくことは、新しい世界退職主事会のリーダーシップの最優先課題です。また新たに、Global Retirement Initiative(GRI) (世界退職者イニシアティブ)と呼ばれる、YMCAの退職主事の保障についての提案書も具体化していきます。

(世界退職主事会新会長 Mr. Jerry Prado-Shaw による報告)

17. エキュメニカルニュース：関連団体/ネットワークより

今後の計画立案のため、ICF 運営委員会がカンボジアで開催

6つの団体により運営されている Interfaith Cooperation Forum(ICF) (異宗派間協力フォーラム) が8月20日と21日に、APAY 総主事 山田公平氏、CCA 主事の Charlie Ocampo 氏、及び ICF スタッフがカンボジア・シエムリアブにて集まり、地域の宗派を越えたユースネットワークの今後の活動について話し合います。加えて、今年の残りの計画立案、2011年～2014年までのネットワークの活動についても話し合う予定です。

10月にスリランカでSOPを行います

ICFにより運営されている(A School of Peace(SOP) (平和学校) が10月22日から11月11日まで、スリランカで3週間にわたり開催されます。20人の参加者が異宗派間の平和プログラムにより招待され、半数は南アジア、東南アジアのY M C Aより参加します。残りの参加者はCCAとICFにより選考されます。

年齢が20歳から40歳までで、草の根での平和を創り出す活動に参画し、平和のために宗派を超えて協働、推進に取り組んでいるY M C Aのスタッフ、ボランティアはこのプログラムに申し込むことができます。2010年8月31日までに、各国同盟総主事を通してアジア・太平洋Y M C A同盟事務局へ申し込んでください。その際、申込者の履歴書、平和構築についての考えと展望、SOPへの参加動機を1ページにまとめたエッセイを添えて申し込んでください。参加者は2010年9月に選出されます。

このプログラムに関する質問等は、APAY 主事 Mr. Jose Varghese (jose@asiapacificymca.org) または、ICF スタッフの Bruce Van Voorhis (bruce.vanvoorhis@gmail.com)へ問い合わせをしてください。

WSCF 地域ミーティング2010

第19回世界学生キリスト教連盟(WSCF)アジア・太平洋地域委員会の会議と、プレ女性ミーティングが、2010年7月18日～28日までインドネシアにて、加盟する16団体からの代表が参加し、開催されました。今回はインドネシアの北スラウェシ州にある5つのブランチとSCMインドネシアが主管し、テーマは「地球の再生:環境の正常化と公平」でした。WSCFの地域主事 Ms. Necta Rocasによると、決議事項の主なるものは、常任委員会及び女性委員会の新委員の選挙、寄付行為の改正への提言と決議、2010年から2011年の地域プログラムの予算の承認でした。Ms. Rocasは、SCM ネパールが世界組織への準加盟への申請を行ったことを加えています。次期の地域同盟総主事候補者選考委員会が、この会議期間中に組織されました。次回のアジア・太平洋地域委員会はSCMインドが主管となり、2012年7月に開催されます。(WSCFはEASY Netの6つのパートナー団体の一つです)

*日本からは佐々木美都氏(中央大学Y M C A)が出席しました。

EASY Net 最新ニュース

EASY Netの今後の目標は、ナショナルエキュメニカルチームにおいて、持続的な社会のなかで宗派を超えた草の根組織が共通して直面する社会的行動について、理解と交流を深めて行くことです。このことについては、地域チームでの最新のオンライン会議にて議論が行われました。いくつかの課題は、NETsと平和文化構築、基本的人権の侵害へのアドボカシー、HIV/AIDSとの闘い、環境保護、移住労働者問題への取り組み等の社会的課題に取り組むユースや学生のグループと、宗派を超えた対話と協力のなかですすでに取り組まれています。

NETは、NET韓国、フィリピン、香港、バングラデシュによる交流、活動、プログラム、対話、協議などについて共有をしています。この4半期では、NETマレーシア、香港、フィリピン、スリランカを対象に、宗派を超えた強いパートナーシップをつくるために各国の状況を理解するための議論を始めるためのミーティングを行いました。EASY NetのコーディネーターチームはNETsとともに、2010年10月のEASY Net週間の式典について計画を立てています。

ワイズメンズクラブ国際大会 2010 が横浜で開催

30 カ国を超える国から 1,300 名が参加し、第 69 回ワイズメンズクラブ国際大会が「『いのち』未来への継承 - 私たちの地球のために - 」というテーマのもと、8 月 5 日～8 日、横浜にて開催されました。アジア・太平洋 Y M C A 同盟総主事 山田公平氏が Y M C A を代表して、オープニングセレモニーでとても勇気付けられるスピーチを行いました。また、約 160 人のユースが参加したユースコンボケーションは日本 Y M C A 同盟国際青少年センター東山荘で行われました。ユースは「Make a Change, Be the Change」というテーマのもと、議論を行いました。

Y M C A とワイズメンズクラブのパートナーシップは、APAY 財務担当役員の西村隆夫氏が 2010 年 12 月 1 日からワイズメンズクラブ国際協会書記長をつとめることにより、よりいっそう強化されることでしょう。

18 . 哀悼 : 元日本 Y M C A 同盟総主事 塩月賢太郎氏

2010 年 7 月 9 日、塩月賢太郎氏が召天されました。塩月氏は 1976 年から 1984 年まで日本 Y M C A 同盟総主事を務められました。塩月氏は、日本の Y M C A だけでなく、1970 年代から 80 年代にかけてのアジアでの超教派における青年運動の偉大なリーダーでした。

塩月氏は学生 Y M C A のメンバーとして Y M C A での歩みをはじめ、第二次世界大戦後の 1947 年に Y M C A 主事となりました。塩月氏はまた、世界キリスト教連盟(WSCF)のアジア主事を 13 年間務めました。

ご遺族と日本の Y M C A のみなさまに、心から哀悼の意を申し上げます。

19 . 今後の予定

日程	プログラム	場所
9 月 24 日～28 日	ジェンダーワークショップ	インド・ブネ
10 月 19 日～24 日	第 3 回アジア・太平洋地域 Uni-Y 協議会	フィリピン・バギオ
10 月 22 日～11 月 11 日	Y M C A 及び宗派を超えた NGO スタッフのための平和学校(SOP)	スリランカ・コロンボ
11 月 14 日～12 月 12 日	第 28 回アドバンスコース	香港

20 . 総主事デスクより...世界大会を終え、次の 4 年にむけて



7 月 19 日から 24 日まで香港で開かれた第 17 回世界同盟総会は、盛大で実りのある会となりました。85 カ国から 1,134 名が参加したもっとも大きい大会となりました。アジア・太平洋地域からは 22 カ国から 300 名が参加、地元香港の参加を含めると 500 人になり、特にユースの参加が目立ちました。新しい世界同盟総主事ヨハン・エルトビック(ノルウェー)、新会長にはアメリカのケン・コロトンが選ばれました。

今回の大会で、世界の Y M C A 運動の進む方向が多くの人たちに理解されたと思います。一方で、世界同盟や地域同盟でやっていることが、ローカルの現場ではほとんど語られず、4 年に一回のこの大会で初めて聞くという現状であり、その理解の隔たりも感じました。この大会で強調されていたことは、GOP(グローバル オペレーティング プラン)、Resource Mobilization (外部資金の獲得と活用)、Y M C A の働きや目的を分かってもらおう努力、そして地域のニーズに沿ったプログラムを展開し、外部資金を活用できるようになるためのキャパシティービルディングが必要という

ことでした。これらは皆つながっており、まさに一つひとつのY M C A 強化につながる動きであるということに気づかれたのではと思います。

ある人がこう言っていました。「世界の文化も言葉もY M C Aのやっていることも全く異なる人たちが一堂に集まると不思議にY M C Aは一つという雰囲気になるところが不思議。それがこの世界大会で感じられた」と。まさにそれがY M C Aのすごいところですね。



今回の大会での感想をいくつか申し上げます。

1．運動強化 (Movement Strengthening)は世界同盟の最重要課題です。130 もの国にY M C A が存在していますが、そのうちの半数以上が弱く、力が発揮できないというのが現状です。ガバナンス、プログラムの内容、スタッフの運営能力、Y M C A理解など、底上げをしなければならぬということを痛感しました。

2．外部資金の活用 (Resource Mobilization)は、今回の大会で何度も出てきた言葉です。Y M C A 運動強化にはお金が必要ですが、お金はしっかりしたところにしか集まらないのが現実です。良い仕事をして成果を上げること。それを社会に対して上手に伝えること、このサイクルが運動を強化していきます。

3．四年に一度の世界大会は、世界もアジアも日本も、そして加盟するすべてのY M C A が共通の意識でこれからの4年を考える機会となっています。この動きをしっかりとローカルの現場に伝える努力が必要であることを感じました。

4．世界Y M C A同盟と7つの地域同盟が今後4年間、上記の目標を達成するために理解と支援をしてほしいと訴えました。4年間で負担金とは別に約1億円(百万ドル)を必要とすることを説明し、その場にいた人たちから心強い賛同を受けることができました。新体制での大きな一歩が踏み出されました。

5．今回の大会ではユースの参加が目立ったという声を良く聞きました。確かにユースは育っており、参加してその気持ちや声を反映する場が多くありました。ユースがY M C Aの中でもっと中心的な働きを担えるようにするためにどうしたらよいか、ユース自身の声が必要です。“Nothing about Youth without Youth”という声が開会式でユース自身から発せられました。

「ユースのいないところでユースのことを決めないで」とでも訳せる言葉です。このようなユース自身がYMCA運動の中心を担うという動きは、今後さらに強まり、2014年に行われる次回の世界大会でそのことがさらに実現されることを祈ります。



アジア・太平洋Y M C A同盟

総主事 山田 公平

主任主事 Cristina A. Dalope / Jose Varghese

アジア・太平洋Y M C A同盟

23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong
tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692
e-mail ~ office@asiapacificymca.org
